

原作者 小國 比沙志氏
脚色並監督者 松本 英一氏
撮影者 唐澤 弘光氏

主要役割

盲目の父 勇造 松本 泰輔氏
其の娘 お照 鈴木 信子嬢
名門の遺児 恒慶 櫻井 浩氏
村の權威者の兒 鐵男 濱田 格氏
あひる飼 五兵衛 小島 洋々氏
其の兒 吾作 里見 明氏
母 お角 市川 桑次嬢
恒慶の母 尾崎 静子嬢

〔解説〕松本英一氏が「愛の世界へ」についで監督製作した映畫である。

略筋——娘は繼を、父は釣竿を、勇造と娘のお照は琵琶湖上に其日其日を送つて居た。或る日親娘は名門の一子恒慶を酒肆から救つた。若い男女の間には期せずして戀は芽生えた。村の若者睦者の吾作と地主の伴鐵男はお照に懸想してゐたが、恒慶とお照の親しげな様を見て嫉妬の餘り遂に彼等親娘を村から追放すべき悪策を企らんだ。村から追はれて行く親娘は哀れなものであつた。恒慶親子は哀れな父娘を漸やく尋ね當てたが勇造は魚の感觸に依つて水に入り変は永劫に歸らず、お照は恒慶の戀も捨て、いつまでも岩上で哀歌「水郷の唄」を淋しく唄ふのであつた。

